

教えて！米子城

第10回

米子の町の城下町 その4



同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**。米子の歴史や文化（カルチャー）にくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力に迫ります。今回は、城下町米子の商家について学びます。

ミナちゃん：暖かくなってきたわね。米子城や湊山公園の桜がとてもきれいよ！

ジローくん：加茂川沿いでも、観光ガイドの案内で町めぐりをする観光客やカメラを片手に散策する人たちをよく見かけるよ。京橋の南側、内町にある重要文化財の**後藤家住宅**などは人気スポットだね。

かるちゃん：後藤家は江戸時代の廻船問屋で、寛政期（1789～1800年）には大型船を何隻も所有し、鳥取藩の米の海上輸送も行っていた豪商なんだ。正徳4年（1714）の建築と伝えられる主屋の建物と一番蔵、二番蔵が重文指定されている。そのほか味噌蔵などもあり、外堀の水運を利用して繁栄した往時の面影がよく残っているね。

ミナちゃん：あのあたりは確か米子城内堀と外堀の間の区域だから、侍屋敷地に住むことが許された御用商人たちが住んでいたところよね。

ジローくん：そうだったね。そういえば、後藤家と同じ並びにもう一軒、古い町家のようなつくりの家があるけど、あれも商家だったのかな。

かるちゃん：天神町の**判屋船越家**のことだね。船越家は江戸時代初期から、船の出入を管理する判屋を務め、寛永期（1624～44年）には荒尾氏の要請で米子港や加茂川を行き交う船方の総支配をしていたんだ。現在の家屋は明治30年代に建て替えられたものなんだけど、外観からは格式の高い町家の風情を感じることができるね。

ジローくん：城下町の水運の隆盛を象徴するように、外堀沿いに二つの大きな商家があったんだね。商家といえば、以前ガイドウォークのときに見学した立町の鹿島茶舗も古くからの商家で、米子城四重櫓の鯨瓦が置いてあったよね。

かるちゃん：そうだね。**鹿島家**は西伯耆一の豪商といわれていて、江戸時代末期の嘉永5年（1852）頃に藩命で行なわれた米子城四重櫓の解体修理の際の功勞に対してこの鯨瓦が下賜されたんだ。市の文化財に指定されているよね。

ミナちゃん：お城の建て替えを商人が肩代わりしたのよね。すごいなあ。米子ってそれだけ昔から商業が盛んだったということね。

かるちゃん：鳥取藩は町人に対して、**町禄**という特別な商工業製品の生産販売の特権を与えたんだ。米子城下では西倉吉町・尾高町の畳表・ゴザ、東・西倉吉町・片原町（現：天神町付近）の宿屋、灘町の船宿・生ものなんかがそうだね。

ジローくん：町禄を与えて商人を保護するかわりに商人は租税を納める。これで城下が経済発展したんだよね。

かるちゃん：そのとおり。商業の町の名残は土地の区画割りにも見ることができるね。江戸時代には家の間口の広さに応じて課税されたので、節税対策として道路沿いの間口は狭く、奥行きがある地割が多かったんだ。大正時代の尾高町の絵図にもうなぎの寝床みたいに長細い区割りが描かれているんだけど、多くが現在も残っているね。ところで**4月9日（土）**午後1時30分から「春の米子城下町 がつつりウォーク！」が開催されるんだけど、君たちもこれに参加して、城下町について学んだことを現地で確認してみてもいいかな。

ミナちゃん・ジローくん：いいともー！よろこんでー！江戸時代にタイムスリップして、がつつり城下町探検だね。

春の訪れとともに米子城&城下町の魅力も満開。フィールドワークが楽しい季節です。次回もおたのしみに！

（米子市教育委員会 文化課）



後藤家住宅



米子城鯨瓦（鹿島茶舗）



米子町大字尾高町地割図・部分